

園芸タイムリー情報


《8月上・中旬版》

平成27年8月3日発行 第6号
 上川農業改良普及センター
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009
 E-mail asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm


全作物共通

- ハウス内の温度が急激に上昇すると葉焼け等が発生します。遮光資材の活用やこまめな換気に努め、作物の生育適温を確保しましょう。
- 病害虫の発生盛期です。特にアザミウマ類、ハダニ類、アブラムシ類が多く発生するようになります。発生予察による適期防除に努めましょう。
- 葉菜類では、高温期に黄化やトロケなど、出荷後の品質低下が問題となります。収穫、調製時は細心の注意を払い、良品生産に心がけましょう。
- 局地的な降雨を想定して、露地栽培では明きよ等の排水路を確保しましょう。
 ハウスでは、浸透水や雨水の侵入に留意し、ビニールの破損等は補修しておきましょう。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

作物名	野菜類全般	
病害虫 生理障害名		
ヨトウムシ類		
発生状況		
少発生		
発生時期	ブロッコリーを食害す	食害を受けたほうれんそう
6月中旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年ほど発生量は多くはないが、各作物で発生が見られている。 ・野菜類全般に被害を及ぼし、茎葉や果実を食害する。 ・ヨトウムシは、5月から7月にかけてと、9月から11月にかけての年2回発生する。 ・高温・乾燥条件で発生しやすい。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・老齢幼虫に対する薬剤の防除効果が劣るので、若齢幼虫時に防除を行う。 ・整枝や摘葉した残渣に卵や幼虫が付着していることがあるので、残渣はほ場外へ搬出する。 ・防除薬剤については、各品目の登録を確認して防除を行う。 		

作物名	きゅうり	
病害虫 生理障害名		
褐斑病		
発生状況		
中発生		
発生時期	大型の斑点症状	新葉に発生する小斑点症状
6～10月		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・葉に淡褐色の小斑点が発生し、やがて拡大して病斑上に黒っぽいかびを生ずる。 ・べと病と間違えやすいが、褐斑病は病斑が丸みをおびて、表面にかびを生ずる。 ・生育適温28℃、高温多湿条件で発生する。 ・ハウス内の土壌や資材に菌が付着し、翌年の発生源となるため、以前に発生したことのあるほ場では特に注意が必要となる。 ・本年は、6月上旬に発生後、湿度が高い条件が長く続いたことから、現在も発生が続き、ほ場によっては拡大している状況である。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場をよく観察し、発病葉は摘除する。 ・積極的な換気を行い、ハウス内湿度を高めないようにする。 ・新葉に小斑点が発生すると、症状の進行が早いため、防除間隔を通常より狭めるなどの対策を講じる。 ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一、同系統薬剤は連用しない。 ・ほ場全体に発生が拡大した場合は、草勢を確保するため罹病葉の摘葉を続けながら、側枝の摘心を控え、生長点を多く確保する。また、通常よりやや間隔を狭めて防除を行う。 		
<防除の一例> ●カンタスドライフロアブル 1,500倍 収穫前日まで 3回以内 ●ジマンダイセン水和剤 600倍 収穫前日まで 3回以内 ●ダコニール1000 1,500倍 収穫前日まで 8回以内 ※カンタスドライフロアブルは、耐性菌の出現を回避するため、年1回の使用に留める。 ※ダコニール1000は、プロポーズ顆粒水和剤と合わせて8回以内とする。		

作物名	きゅうり	
病害虫 生理障害名		
うどんこ病		
発生状況		
少発生		
発生時期		
6月上旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・葉上にうどん粉をふりかけたように白色、粉状のカビを生ずる。 ・多湿から乾燥まで広範囲の湿度条件下で蔓延し、やや高め気温(25℃くらい)で発生しやすい。 ・成り疲れや肥料切れなどで草勢の衰えた場合に発生しやすい。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・葉表、裏ともに症状が発生するため、葉裏の発生状況も確認する。 ・ほ場内が乾燥条件とならないよう注意し、高温時には通路かん水も検討する。 ・発生を確認したら早期に防除を行う。 ・防除は、農薬の登録の範囲内で十分な散布量を確保し、薬液がしっかりとかかるように行う。 		
<防除の一例> ●ハーモメイト水溶剤 800～1,000倍 収穫前日まで 回数制限なし ●ポリバリン水和剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●パンチョTF顆粒水和剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ※パンチョTF顆粒水和剤とトリフミン水和剤の総使用回数は合わせて5回まで ※ポリバリン水和剤とベルコート水和剤の総使用回数は合わせて5回まで		


作物名	きゅうり	
病害虫 生理障害名		
べと病		
発生状況		
発生に注意		
発生時期		
7月下旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・始めは、葉脈に囲まれた角形で黄色の病斑を形成し、古くなると褐変し、多湿時には、葉裏に黒色のかびを生じる。 ・褐斑病と良く似ているが、べと病は病斑が黄色味を帯び、葉裏にかびを生じることから判別できる。 ・曇雨天が続いたり、ハウス内が多湿となると発生しやすい。また、肥料切れでも発生が助長される。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・適正な管理で草勢を保つとともに積極的な換気を行い、ハウス内湿度を高めないようにする。 ・発病初期に防除を開始する。 		
<防除の一例> ●ジマンダイセン水和剤 600～800倍 収穫前日まで 3回以内 ●ライメイフロアブル 2,000～4,000倍 収穫前日まで 4回以内 ●ホライズンドライフロアブル 2,500倍 収穫前日まで 3回以内		


作物名	トマト類
病虫害生理障害名	 <p>葉表にもかびが発生した状況</p>
葉かび病	
発生状況	
多発生	
発生時期	
5月下旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 病斑は、はじめ下葉に現われ、しだいに上葉にひろがる。 はじめ葉の表面の一部がわずかに黄変し、その裏側に灰白色の輪郭の不鮮明な病斑を生じ、灰白色のピロード状のカビを密生する。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> 換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。 適期に追肥を行い、草勢維持に努める。 被害残渣は適切にほ場外へ搬出する。 <p><防除の一例（トマト・ミニトマト共通）></p> <ul style="list-style-type: none"> ●トリフミン水和剤 3,000～5,000倍 収穫前日まで 5回以内 ●アフエットフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 <p>※アフエットフロアブルの使用回数は3回以内となっているが、耐性菌の出現を防ぐため1～2回/年の使用に留める。</p>	

作物名	トマト類
病虫害生理障害名	 <p>葉表の症状</p>  <p>黒いカビが生じることもある</p>
すすかび病	
発生状況	
中発生	
発生時期	
6月上旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 症状が葉かび病と非常によく似ている。 気温が高くなってから見られるようになった。 葉表が黄変し、徐々に茶色に枯れ込む。 葉裏には灰色、黒色のカビが生じている。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> 換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。 被害葉は摘除し、残渣は適切にほ場外へ搬出する。 <p><防除の一例（トマト・ミニトマト共通）></p> <ul style="list-style-type: none"> ●トリフミン水和剤 3,000倍 収穫前日まで 5回以内 ●アフエットフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 <p>※アフエットフロアブルの使用回数は3回以内となっているが、耐性菌の出現を防ぐため1～2回/年の使用に留める。</p>	

作物名	トマト類
病虫害生理障害名	  <p>写真左：茶褐色化した茎 写真右上：ツヤのない果実</p>
トマトサビダニ	
発生状況	
少発生	
発生時期	
7月中旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 茎葉や果実が茶褐色に変色し、ツヤが無く、下位葉から枯死している。 体長約0.2mmと、非常に小さいため、肉眼では見えない。 高温期に発生が多くなるため、今後注意が必要である。 前年発生したほ場では特に注意が必要である。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> 被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。 発生を確認したら直ちに薬剤散布する。 <p><防除の一例：トマト・ミニトマト登録></p> <ul style="list-style-type: none"> ●マルハナバチを放飼している場合 <ul style="list-style-type: none"> ●マイトコーネフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 1回以内 ●コロマイト乳剤 1,500倍 収穫前日まで 2回以内 ●マルハナバチを放飼していない場合(上記2剤を含む) <ul style="list-style-type: none"> ●コテツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●アフファーム乳剤 2,000倍 収穫前日まで 5回以内 	

作物名	トマト類
病虫害生理障害名	 <p>ミカンキイロアザミウマの吸汁痕</p>  <p>ヒラズハナアザミウマの吸汁・産卵痕</p>
アザミウマ類	
発生状況	
中発生	
発生時期	
6月下旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ミカンキイロアザミウマに吸汁された果実は金粉を散らしたような症状を呈する（特に中玉、ミニトマト）。 ヒラズハナアザミウマに吸汁、産卵された果実は白ぶくれ症状を呈する。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、薬剤を発生初期に散布する。 ローテーション防除を心がける。 マルハナバチへの影響日数を考慮して薬剤を選択する。 <p><防除の一例（トマト・ミニトマト共通）></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ミカンキイロアザミウマ登録 <ul style="list-style-type: none"> ●ウララDF 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●コテツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●アザミウマ類登録 <ul style="list-style-type: none"> ●ハチハチ乳剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●ディアナSC 2,500倍 収穫前日まで 2回以内 	

作物名	えだまめ
病虫害 生理障害名	 <p>被害莢と老熟幼虫</p>
マメシクイガ	
発生状況	
発生に注意	
発生時期	
7月下旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ・幼虫が未熟な莢の内部に侵入し、子実を食害する。 ・侵入孔は小さいため、外見から被害を判断するのは難しい。 ・成虫は7月下旬～8月上旬に羽化し、直後から若い莢に産卵する。 ・7～9日程度で卵からふ化した幼虫は、莢の内部へ侵入する。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ・防除時期は、成虫が羽化する7月下旬以降。 ・莢伸長始め（莢長2cm程度）に達したときから、7～10日間隔で2回防除する。 <p>〈防除の一例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アグロスリン乳剤 2,000倍 収穫7日前まで 3回以内 ●フェニックス顆粒水和剤 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 	

作物名	きく
病虫害 生理障害名	
灰色かび病	
発生状況	
中発生	
発生時期	
6月下旬～	

発生の状況・要因
<ul style="list-style-type: none"> ・摘蕾部や芽かき作業中の葉の折損、また葉上に残った摘蕾残渣などから発生していることが多い。 ・多湿時や風通しの悪い環境で発生が多い。
対策
<ul style="list-style-type: none"> ●防除のポイント ・摘蕾、芽かき作業は天気の良い日に行い、その後防除を行う。 ・摘蕾、芽かき作業は丁寧に行い、脇枝下の葉を傷めないようにする。 ・循環扇や加温機ダクト送風により通気性を良好にする。 ・薬剤耐性を防ぐためローテーション防除に努める。 <p>〈防除の一例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●セ化 アーフロアブル20 1,000倍 発病前～発病初期 4回以内 ●フルピカフロアブル 2,000～3,000倍 発病初期 5回以内 ●ポリベリン水和剤 1,000倍 発病初期 5回以内 ●アフエットフロアブル 2,000倍 発病初期 3回以内

◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を
実践しましょう。
◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病虫害の発生を最小限に抑制しましょう。

◆この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、幌加内町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。
気象・土壌条件作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。
(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)
◆掲載されている農薬情報は、平成27年6月30日現在の登録内容となっていますので、
活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 【異物混入編】—異物混入防止は整理・整頓・出荷時の確認から— □■□■□■□■□■

- ・収穫時に使用するコンテナ、包装資材は衛生的に管理しましょう。
- ・調製作業の前後では、選果場所をきれいに清掃しましょう。
- ・収穫時に使用するコンテナや包装資材は、汚れが無いように管理しましょう。
- ・調製に使うはかりや資材の整理整頓をしっかりと行いましょう。
- ・作業に必要なものは、作業台に置かないようにしましょう。
- ・出荷物に異物が混入しないように目視確認を行いましょう。

＜地域の事例＞

- 選果する台上には必要最小限のものしか置かない。
- 台上は白く清潔にしており、汚れや異物が目立つようにはしていない。

